

令和3年6月 総合教育委員会 会議録

■日時 令和3年6月10日 16:10から17:15

■場所 役場3階 大会議室

■参集範囲

壬生町長

教育委員 帯刀教育長、湯澤委員、鈴木委員、熊谷委員

三校学校長 塚越南小校長、堀米北小校長、上澤中学校長

事務局 福島事務局長、清水局長補佐、松島こども支援係長、高野公民館長、寺沢社会教育係長、久保田文化財保護係長、前田こども家庭総合支援室係長、木村給食センター長

◆壬生町長あいさつ

今年に入り、数か月だが、いろいろなところで子どもたちが地域に出る活動をしている。掲げている地域に根差した教育が課題もあるが、徐々に実現できているように感じている。

◆本年度のキャリア教育について

【小学校の取組み／社会教育係から】

1年から6年まで、学年を経て地域人材を育てていく計画を定めている表になっている。特に町の教育委員会と一緒に連携をして活動を行う6年生では、①町づくりを知ろう②町づくりを考えよう③町づくりを提案しようの3つの軸で考えている。“町づくりを知ろう”では、5月19日に南北小6年生が合同で南小体育館にて町長を含め、アイスブレイクや町づくりに対して意見交換を行った。最終的には、“町づくりを提案しよう”で、12月21日にみらい懇談会を予定している。そのための事前学習として、“町づくりを考えよう”では、6月30日に町づくり勉強会を行う。内容は、南北小学校の子どもたちに町づくりに対して意見を聞き、その中でも特に関心の高いテーマを、各課からテーマに沿ったブースを出展してもらう。そのブースで学びを深める場とする。それと合わせて、議場見学や庁舎見学も行っていく。そこの学習を受け、各自学びを深めるテーマを決めていく。例年、みらい懇談会で提案して終わりとなっていて、役場との関りが少なかった、という意見を学校側からもいただいている。今年は、提案までの過程で各担当課に相談し意見をもらいながら提案内容を深めていきたい。

【中学校の取組み／社会教育係から】

中学校においても各学年で目標を定めている。1年生では“高森を知る”2年生では“高森で働く”3年生は“高森町に働きかける・発信する”。本年度から各クラスに2名ずつ町職員を配置した。町づくりに関することや学校の授業の中で役場とのつながりの窓口になる役割がある。本年度は、中学1年生が課題であり、市田柿について探求したいと意見を頂

いているが、こういった方向性で進めるか未定の為まだ動いていない。中学2年生は、みらい懇談会があるので8月末からスタートしていく予定。3年生は発信をテーマとして、昨年度みらい懇談会で提案した内容の中から実現可能そうなことを実際にやってみるということで、6月4日にキックオフ集会として動き始めたところである。

【中学校の取組み／上澤校長から】

大きな帯で流れている軸はキャリア教育として「なりたい自分への挑戦」である。高森の時間や仕事☆みらいフェアや進路学習も進めている。1年生だけ難しさを抱えているのは事実であり、そもそも1年生だけ活動時間が20時間と少ないのもネックである。小学生からの学習の繋がりを付けるために、中学3年からの逆算構想での発想で考えていきたい。来年度の総合的な学習の時間を考えていく中で、職員と共有していきたい。

若手職員の力を借りているが、具体的に地域に関わって地域で生きる人のモデル、人としてのモデルを果たしてもらっているような気がした。若手職員を「将来地域に出た自分」と考えて子供たちが捉えられていると思う。

地域応援隊は、活動していくと時数の問題や天候の問題等、課題がたくさん見えてきた。これから動きながら、修正していき持続可能な活動にしたい。

【北小学校の取組み／堀米校長から】

中学校での学習をより深いものにしていくために活動を丁寧に重ねていく必要がある。

1年：あさがお・交流としては遠足で遊ぶ 学びを進めていく（全学年共通）

2・3年：さくらんぼ農家の収穫体験 6/11 1・2・3年が体験しに行く。

4年：ホタル太鼓の練習が始まる。6/18には4・5・6年生を対象に、信大の先生による地域学習

5年：現状県外へ出るのは難しい。地形を生かした地域 県内での高森の違いを知る

6年：1年生を迎えよう 平和学習については、図書館にも協力してもらい考えている
まちづくりを提案しようと思ったが、実際に動いてみる必要があると感じた。実際に動くことを頭に入れた状態で、何を提案しようか考えるようにしている。

【南小学校の取組み路 】南小

1・2年：生活科での地域探検

3・4年：社会科の枠で、地域を知る学習 地域探検

3年生は昨日、瑠璃時等にも訪れた。堂所浄水所にも見学に行った。

5・6年生：総合的な学習の時間がある。担任の願いもあり、クラスによって内容が違う。

5年は、観光・歴史・桜を進めている。6年はみらい懇談会について進めている。

総合は探究的な学びを深めるために大事な時間である。内容は違えど、プロセスとして持つのは非常に大事にとらえている。

(壬生町長)

南北小は統一感を持った学習をしながらも、規模の違いがある。それでもある程度の統一感を持ってきていてありがたい。北と南が分かれるのではなく、交流をするのは大切。提案してくれたことが、中学1年で交わらずに、一度0に戻るのはもったいない。小学校6年から中学1年につながるのが1番大事だと思う。みらい懇談会(12月の提案)の後に実行するのは難しい部分大きい。中学1年につながりがあることが一番望ましい。成功体験を作ることが大事で、自分の提案したことが実現している、実現したという経験を持ってもらいたい。品川区が小中一貫でやっている。1～4年生、5～中3の2学校で分かれている。自分たちでやるのは大変、職員にやってもらうのも大変。地域の方や地元高校生を活躍して、幅広く考えていくことが大事になってくる。女子短の地域社会学の人と協力してもらうのもいいと思う。若い人を育てる、という点では職員もいいが学生を活用すると双方の学びに生きてくる。地域学習を行っても残らないものになってしまっては意味がない。

9か年(小中一貫)のカリキュラムでやっているところは少ないが、そこを構成できれば大きい。カリキュラムマネジメントは、高森町が作っていくものである。義務教育の間はいいが、義務教育を終えた学生たちにどうアプローチをしていくかが課題である。そのつながりをどうつけるか、というものがある。中学卒業後のアプローチが大事。高校・大学にもつながるような学びをしてもらい、下の世代に教えていってほしい。

教科の狙いがある。フォアカリキュラム、単元を目的としたものがある。「総合が足手まといになり、教科の学習が進まない。」というのではなく、「総合がうまく作用して教科に前向きになっている」と思うような評価をしていく必要がある。小学校1年が朝顔を育てる。なんで朝顔なのか。それは親に伝わっていない。朝顔の代わりをできる高森のものはないか、代わりになるようなものが高森でないか、というような問い合わせが欲しい。地域のものを教材として是非盛り込んでほしい。

(熊谷委員)

教育委員として何かできないか考えた。パラスポーツを通じて、思いやりのある子どもや助け合いができる子どもに育ててほしい。是非、ブラインドサッカーや車いすバスケットなどを体験できるといいと思う。毎年、恒例行事として体験できる機会を設けられるようにしたい。若い先生を中心に考えてもらえたらと思う。

(塚越校長)

先生たちに熊谷さんから講演会をしてもらい、理解を得てから活動を行う必要がある。また、先生方の空気感を見て提案内容の取捨選択ができると思う。

(事務局)

ある程度カリキュラムの構想を練る必要がある。社会教育係が全体統括をしていく。

(上澤校長)

中学は授業の内容にオリンピック・パラリンピックの学習が入っているので、スムーズに入れると思う。

(堀米校長)

北は4年生が安曇野に行く予定だが、木崎湖に行ってカヤックに乗り、高森にもあるよね、と思ってもらいたい。実際に体験したことのプロの話を聞くと頭に残りやすいのでは。

(熊谷委員)

本物の話を聞くことができればそれに勝るものはない。点ではなく、線として今後の活動につながるようにしてもらいたい。本当は、パラスポーツを誘致して、そのスタッフに小中学生を入れて体験してほしい。ぜひ誘致してほしい。

(堀米校長)

地域との関わりが昨年より圧倒的に増えてきた。地元の方の活動を子どもたちが知ることが非常にいい経験だと思う。

(壬生町長)

新型コロナウイルスの蔓延で活動が制限される中ではあるが、その中で何ができるか。コロナを活動できない理由としないようにしていただきたい。楽しみにしていた活動が減る、縮小されることがあまりないよう、地域としても気を付けてやっていきながら、一緒に行っていきたい。町としては、今後も無理な願いをすることもあるが、ぜひご尽力いただきたい。